

令和6年度 教育指導の重点及び学校経営計画

学校番号	53	学校名	坂下高等学校
------	----	-----	--------

学校教育目標 (教育方針)	<p>〈地域に根ざした坂下高校〉～地域と共に、地域と育つ                  社会の進展や変化に主体的に対応し、生涯にわたって心豊かで創造的な人生を営む態度や能力を身に付け、医療、福祉、生活文化をはじめとする幅広い分野で、地域社会に貢献できる生徒を育成する。</p>	
3つの方針 (スクールポリシー)	どんな生徒を 育てたいか 【GP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会の課題に主体的に対応し、他者と協力しながら課題解決に取り組む生徒</li> <li>・ 夢と希望を持ち、前向きに人生に向き合い、他者への思いやりを忘れない生徒</li> <li>・ 地域社会の様々な分野で、自己の役割を自覚し、社会に貢献する生徒</li> </ul>
	生徒をどう 育てるか 【CP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を通じた基礎学力の定着とコミュニケーション能力の育成</li> <li>・ 教科の学習目標に向け、ICTはじめ学習方法の工夫と研究を通じた主体的・対話的な学びの育成</li> <li>・ 地域と連携した多様な学習活動を通して、ローカルな学びをグローバルな学びへと展開できる課題解決力・深い学びの育成</li> </ul>
	どんな生徒を 待っているか 【AP】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自らの意志で学ぼうとし、目的意識を持って学校生活に取り組む生徒</li> <li>・ 新しいことにチャレンジし、粘り強く最後まで真面目に取り組む生徒</li> <li>・ 地域を愛し、将来の地域社会のために役に立ちたいと考えている生徒</li> </ul>
学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福祉科への入学希望者の減少</li> <li>・ 幅広い学力層である生徒へのきめ細かな対応</li> <li>・ 進路選択の幅が狭い生徒が多く、進路決定に向けての指導対応</li> <li>・ SNS等による生徒間のトラブルの増加への対応</li> </ul>	
教育指導の重点	領域・分野	今年度の具体的な重点目標
	学校経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域との連携により、個々の生徒のニーズに応じた探究的学びの場を確保する。</li> <li>・ 福祉科の生徒募集につながる地域を巻き込んだ包括的な協力体制を構築する。</li> </ul>
	学習指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育課程の検討と教科「地域連携」の充実を図る。</li> <li>・ 情報機器の有効活用や少人数による授業改善と基礎学力を育成する。</li> </ul>
	進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎学力の向上と進路実現を支援する。</li> <li>・ 主体的に考え、行動できる姿勢を育てる。</li> </ul>
	生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員による教育相談体制を確立し、不適切行動の未然防止・早期発見・早期対応に努める。</li> <li>・ 家庭・地域・SC等関係機関と密に連携をとり、適切な生徒支援を組織的に進める。</li> </ul>

年度目標			
領域分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標
学校経営	地域の自治体との連携	20	施策Ⅳ-20
	出前授業等による広報活動	20	施策Ⅳ-20
	生徒のボランティア活動への積極的参加の働きかけ	1	施策Ⅰ-1
学習指導	地域探究科の教育課程の見直し	4	施策Ⅰ-4
	地域連携や探究活動を導入している授業の公開	26	施策Ⅳ-26
	補充・朝活動、授業『ベーシック』等の支援の継続	23	施策Ⅳ-23
進路指導	生徒・保護者への進路情報の提供	13	施策Ⅱ-13
	地元事業所との連携	13	施策Ⅱ-13
	進路学習の機会（進学カレッジ・オープンキャンパス等）への積極的な参加への促し、支援	13	施策Ⅱ-13
生徒指導	身だしなみ指導・あいさつ運動の継続による規範意識の高揚	1	施策Ⅰ-1
	教育相談の充実と教育相談体制の確立を通じた情報共有	3	施策Ⅰ-3
	保護者との密な連絡等による充実した連携	7	施策Ⅰ-7

年度末評価（自己評価）			
取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	評価 A. B. C. D	成果と課題	総合評価 A. B. C. D
<ul style="list-style-type: none"> <li>行政、医療機関等に対し、福祉における今後の人材育成についての協議を行うなどの働きかけを行った。</li> <li>市内の小中学校併せて件の出前講座、また福祉科・ギターマンドリン部を中心として、地域イベントへの参加を積極的に行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉協議会や中津川市と連携し、市民に対して福祉への人材発掘につなげる行事を行うことができた。今後も地域自治体、医療機関、福祉施設等を巻き込み、ボトムアップ式での取り組みに発展させたい。</li> </ul>	B
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育課程員会を6回開き、地域探究科の教育課程の一部見直しを検討した。</li> <li>朝活動についての見直しを実施し、朝活動の計画、内容、教材についての検討をした。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域探究科の「総合的な探究の時間」と「産業社会探究」の内容を見直し、学習内容の精選を行うなど、探究学習に関して精選を行うことができた。</li> <li>基礎学力診断テストで学力の伸びが見られた学年がある一方、伸びが見られなかった学年もあり、少数授業や習熟度別授業を生かした授業のあり方の工夫が課題として残る。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>進学補習をスタディサプリを活用し、生徒の基礎知識の学習をより効率的かつ効果的に進めることで学力の向上を目指した。</li> <li>デュアルシステムが2年目を迎え、生徒の職業観、勤労観を育てることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路に関する取り組み等や情報については、通信や学年に協力をしてもらいながら、適宜提供をしている。</li> <li>地元の事業所の協力を得てデュアルシステム、インターンシップを実施し、自己理解を深め進路意識を高めることができた。</li> </ul>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>月2日間の身だしなみ指導を実施し、身だしなみの意識の高揚に努めた。</li> <li>スクール相談員の方の援助もあり、生徒の相談が充実した。また、スクールカウンセラーとの面談も周期的に実施し、内容を共有できている。</li> <li>常に生徒の様子に気にかけて、気になる点がある場合には保護者へ連絡を入れ情報共有をしている。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>身だしなみについて落ち着いている。声をかけ、素直に直すことができる生徒である。</li> <li>SNSでの問題でも啓発活動等により生徒に呼びかけることもあり大きなトラブルに発展しなかった。</li> <li>自己確立がなかなかできない生徒に対しての指導の体制を作り上げていく必要がある。</li> </ul>	

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和7年1月14日

<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉科への入学希望の増加を目指し、本年度から構築し始めている地域と連携した包括的な協体制を進化させるために各種機関との密な連携をとり、協議を深める。</li> <li>地域探究科の学校設定科目について、担当者から授業の効果と課題をアンケートで集計するなどし、次年度の教育課程委員会で検討する。</li> <li>地域探究科の生徒にアンケートを実施する。少数授業や習熟度別授業に関する項目も入れながら、生徒からの声を集約し、その結果を次年度の授業展開に活かす。</li> <li>学校生活に馴染めない生徒への指導を教育相談係とスクール相談員を中心とし、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を深め支援体制を確立する。</li> <li>生徒や保護者の進路意識を高めるため、LHRや進路通信、PTA総会等を利用して情報提供をしていく。</li> <li>生徒の進路実現のため、基礎学力向上や試験対策（小論文・志望理由書等）の支援体制を整える。</li> </ul>
---

学校関係者評価

実施日：令和7年1月24日

<ul style="list-style-type: none"> <li>地域を知ることによって地域に愛着をもち、地域が自慢になるように今後とも地域を大切にしながら教育活動を進めてもらいたい。</li> <li>教育課程を毎年見直していることから、教員の生徒への想いが伝わってくる。今後も生徒の実情に合わせ、最大限効果的な教育効果が得られるようにしてもらいたい。</li> <li>生徒が非常に落ち着いている。生徒の活躍する場面や発表する場面も多くあり、成功体験が生徒の自信につながっている。</li> <li>高校まで大学までが勉強ではなく、将来にわたって自分自身で決めて学びたいと思えるような教育、また好奇心に基づいた進路指導ができるとよい。</li> </ul>
--